

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 94人 | 算数 | 94人 | 理科 | 94人 |
| 第5学年 | 国語 | 93人 | 算数 | 93人 | 理科 | 93人 |

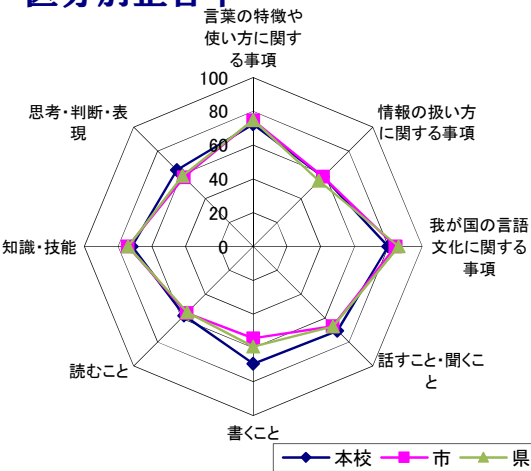
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 72.3 | 74.7 | 74.8 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 58.5 | 58.4 | 55.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 79.8 | 84.3 | 86.1 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 70.5 | 66.7 | 66.9 |
|     | 書くこと             | 69.4 | 54.3 | 59.3 |
|     | 読むこと             | 57.9 | 55.6 | 55.2 |
| 観点  | 知識・技能            | 71.8 | 74.1 | 74.0 |
|     | 思考・判断・表現         | 63.9 | 58.0 | 59.1 |



★指導の工夫と改善

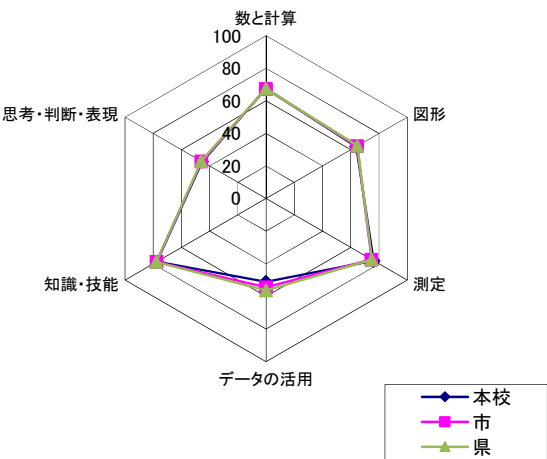
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                      | 今後の指導の重点                                                                                                                                              |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は72.3%であり、県平均を2.5ポイント、市平均を2.4ポイント下回っている。<br>○文中における主語と述語の関係を捉える設問では、平均正答率が68.1%であり、県平均を2.2ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。<br>●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では、平均正答率が54.3%であり、県平均を4.8ポイント、市平均を3.7ポイント下回っている。<br>●漢字を正しく読み書きする設問の一部で、平均正答率が県や市の平均を下回っている。 | ・ローマ字を読んだり書いたりする機会を増やすとともに、形の似ているアルファベットへの意識を高め、外国語活動と関連付けた指導を工夫し、ローマ字の習熟を図る。<br>・漢字については、文章の読み取りと関連付けて指導したり、漢字ドリルなどで正しい字形で書く練習をさせたりして、正しい読み書きの定着を図る。 |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は58.5%であり、県平均を3.5ポイント上回り、市平均とほぼ同じである。<br>○国語辞典の使い方を答える設問、平均正答率が58.5%で、県平均を3.5ポイント上回り、市平均とほぼ同じであった。                                                                                                                                     | ・国語辞典をすぐに手に取って活用できる環境を整えるとともに、様々な場面で言語に興味をもてるような活動を取り入れ、国語辞典の正しい使い方が定着できるようにする。                                                                       |
| 我が国の言語文化に関する事項   | 平均正答率は79.8%であり、県平均を6.3ポイント、市平均を4.5ポイント下回っている。<br>●漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて答える設問では、平均正答率が79.8%であり、県平均を6.3ポイント、市平均を4.5ポイント下回っている。                                                                                                          | ・漢字の成り立ち等を調べる活動を取り入れ、へんやつくりなどを意識しながら漢字練習に取り組む機会を増やし、漢字の構成への理解を深める。                                                                                    |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は70.5%であり、県平均を3.6ポイント、市平均を3.8ポイント上回っている。<br>○相手に伝えるように、自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、平均正答率が83.0%であり、県平均を8.5ポイント、市平均を8.7ポイント上回っている。                                                                                                            | ・学級活動など他教科での話し合い活動でも、理由を挙げながら表現する場を意図的に設定する。                                                                                                          |
| 書くこと             | 平均正答率は69.4%であり、県平均を10.1ポイント、市平均を15.1ポイント上回っている。<br>○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く設問では、平均正答率が75.5%であり、県平均を8.4ポイント、市平均を12.8ポイント上回っている。                                                                                                         | ・様々な教科において文の構成や言葉の選択を工夫し、読み手に分かりやすく伝える文を書く機会を増やし、書く力を高められるようにする。                                                                                      |
| 読むこと             | 平均正答率は57.9%であり、県平均を2.7ポイント、市平均を2.3ポイント上回っている。<br>○説明文において叙述を基に文章の内容を答える設問では、平均正答率が74.5%であり、県及び市平均を5.8ポイント上回っている。                                                                                                                            | ・説明文や物語文の読み取りで、言葉の意味やつながりを考える活動をしたり、段落や場面の内容を捉える作業を設定したりして、文章の構成や内容を正しく捉えられるようにする。                                                                    |

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 67.5 | 67.3 | 67.4 |
|     | 図形       | 63.8 | 64.5 | 64.7 |
|     | 測定       | 76.1 | 74.7 | 74.9 |
|     | データの活用   | 51.1 | 54.4 | 56.4 |
| 観点  | 知識・技能    | 77.4 | 77.6 | 77.8 |
|     | 思考・判断・表現 | 45.4 | 45.8 | 46.1 |



★指導の工夫と改善

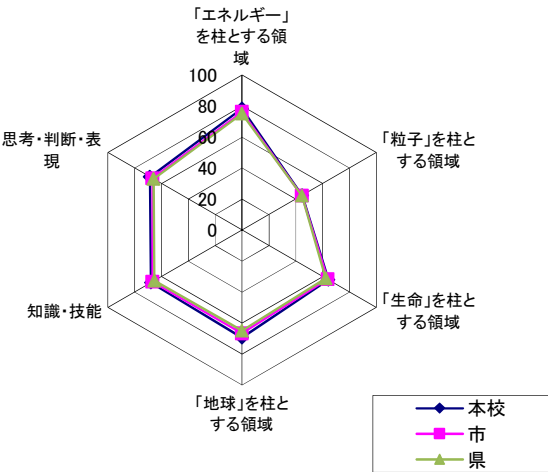
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                       |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率が67.5%であり、県や市の平均正答率とほぼ同じである。<br>○小数の仕組みや表し方として正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が89.4%で県平均を1.8ポイント、市平均を2.1ポイント上回っている。<br>●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する問題は、平均正答率が8.5%で、県平均より5.1ポイント、市平均より4.7ポイント下回っている。                                    | ・式の指導では、その理由や根拠を説明したり、伝えたりする言語活動を取り入れることで、具体的な場面に対応させて関係を表すことができるようにする。        |
| 図形     | 平均正答率が63.8%であり、県平均を0.9ポイント、市平均を0.7ポイント下回っている。<br>○球の半径について正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が68.1%で、県平均を3.4ポイント、市平均を4.7ポイント上回っている。<br>●二等辺三角形を作図する設問では、平均正答率が79.8%で、県平均を4.6ポイント、市平均を4.9ポイント下回っている。                                   | ・分度器やコンパス、三角定規などを用いて作図する機会を意図的に増やし、正しく作図をしたり、図形の性質を理解したりすることができるよう指導を継続する。     |
| 測定     | 平均正答率が76.1%であり、県平均を1.2ポイント、市平均を1.4ポイント上回っている。<br>○地図から道のりを読み取って、その和を求める設問では、平均正答率が91.5%で、県平均を3.5ポイント、市平均を4.4ポイント上回っている。<br>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問では、平均正答率が44.7%で、県平均を6.4ポイント、市平均を5.4ポイント下回っている。                      | ・児童が実際にはかりや数直線などを使う機会を増やし、使い方や読み取りの定着を図る。                                      |
| データの活用 | 平均正答率が51.1%であり、県平均を5.3ポイント、市平均を3.3ポイント下回っている。<br>●棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える設問では、平均正答率が84.0%と県・市ともに5.2ポイント下回っている。<br>●2つの棒グラフで、1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が18.1%で、県平均を5.5ポイント、市平均を1.6ポイント下回っている。 | ・他教科との関連を図り、資料内の棒グラフの目盛りを正しく読み取ったり、グラフから読み取れることを発表したりする場を設けて、グラフを正しく読み取る力を高める。 |

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 78.3 | 76.2 | 75.1 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 44.7 | 44.5 | 44.5 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 64.3 | 63.6 | 62.3 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 69.4 | 66.6 | 64.9 |
| 観点  | 知識・技能          | 68.0 | 66.8 | 65.4 |
|     | 思考・判断・表現       | 68.7 | 66.8 | 65.9 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                     | 今後の指導の改善                                                                                |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率が78.3%であり、県平均を3.2ポイント、市平均を2.1ポイント上回っている。<br>○電気を通す性質があるものの名称を答える設問では、平均正答率が72.3%と県平均を10.7ポイント、市平均を8.2ポイント上回っている。<br>○音の性質についての設問では、平均正答率が76.6%と県平均を6.0ポイント、市平均を4.4ポイント上回っている。         | ・電気や音の性質についての学習では、実物を用いて実験したことが十分な理解につながったと考えられるため、今後も実験活動を多く取り入れていきたい。                 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率が44.7%であり、県や市の平均正答率とほぼ同じである。<br>○同じ種類の本でできている積み木を答える設問では、平均正答率が84.0%であり、県平均を6.2ポイント、市平均を5.3ポイント上回っている。<br>●形を変えた粘土の重さについての設問では、平均正答率が39.4%であり、県平均を6.3ポイント、市平均を5.4ポイント下回っている。          | ・実験や観察の結果から考察をノートに書く時間を十分にに取り、自分の言葉を使って説明する活動や友達と考えを共有する活動を取り入れることで、粒子領域の知識を深められるようにする。 |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率が64.3%であり、県平均を2.0ポイント、市平均を0.7ポイント上回っている。<br>○記録カードを比べて分かることを選ぶ設問では、平均正答率が89.4%と、県平均を10.1ポイント、市平均を7.7ポイント上回っている。<br>●ホウセンカの成長のようすを問う設問では、平均正答率が12.8%であり、県平均を3.2ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。 | ・生長の順を十分に理解できるよう観察の時間を十分に設けるとともに、一人一台端末を用いて記録を残し、生長の過程をまとめる活動を取り入れる。                    |
| 「地球」を柱とする領域    | 平均正答率が69.4%であり、県平均を4.5ポイント、市平均を2.8ポイント上回っている。<br>○温度計の使い方を選ぶ設問では、平均正答率が79.8%と、県平均を7.8ポイント、市平均を4.7ポイント上回っている。<br>●太陽の位置の変化を方位で答える設問では、平均正答率が46.8%であり、県平均を2.8ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。         | ・太陽や月、星座などの観察をする場面において、観察対象がどの方位にあるのかを確かめる質問をしたり、記録用紙に方位を記入させたりすることで、繰り返し指導し、知識の定着を図る。  |

## 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」という質問への肯定的回答率は62.7%と、県平均を14.7ポイント、市平均を15.1ポイント上回っている。朝の読書の時間の有効活用や定期的に図書室を利用していることが、読書量の確保につながっていると考えられる。

○「次の教科の授業の内容はよく分かりますか。 社会」という質問への肯定的回答率は89.4%と、県の平均を5.9ポイント、市平均を6.8ポイント上回っている。ICTの有効活用したり、児童の興味関心を引き出す資料を提示したりすることで、理解が深まったと考えられる。

○「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」という質問への肯定的回答率は89.3%と、県の平均を4.4ポイント、市平均を6.1ポイント上回っている。「岡本西小授業スタンダード」を活用し、ノートの取り方やまとめの観点などを毎時間指導してきたことが、今回の結果につながったと考えられる。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」という質問への肯定的回答率は65.9%で、県の平均より11.7ポイント、市の平均より10.9ポイント下回っている。話し合いを通して、共通点や相違点、利点や問題点を分類する活動を取り入れたり、異なる考えを聞き、意見の基となる理由を尋ね合う活動を設定したりしていく。

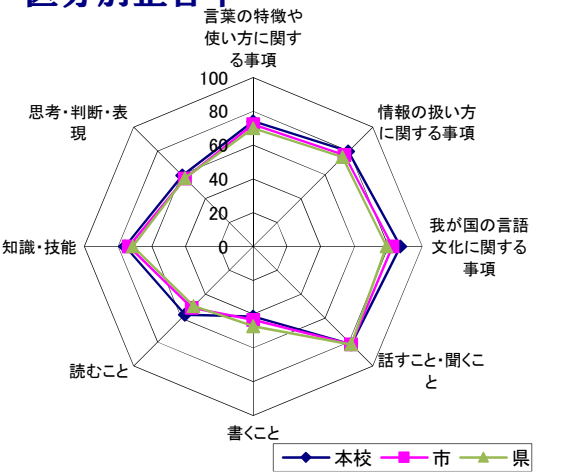
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」という質問への肯定的回答率は55.3%で、県の平均より10.1ポイント、市の平均より10.3ポイント下回っている。係や当番活動を充実させたり、学校生活の中で児童一人一人が活躍できる場を意図的に設けたりするなど児童の自己有用感を高めていく。



宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 74.1 | 72.3 | 70.0 |
|     | 情報の扱いに関する事項    | 79.6 | 76.4 | 74.9 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項 | 87.1 | 82.4 | 78.9 |
|     | 話すこと・聞くこと      | 82.0 | 81.9 | 82.0 |
|     | 書くこと           | 41.4 | 43.5 | 47.2 |
|     | 読むこと           | 57.1 | 51.4 | 49.8 |
| 観点  | 知識・技能          | 75.8 | 73.6 | 71.3 |
|     | 思考・判断・表現       | 59.4 | 57.1 | 57.2 |



★指導の工夫と改善

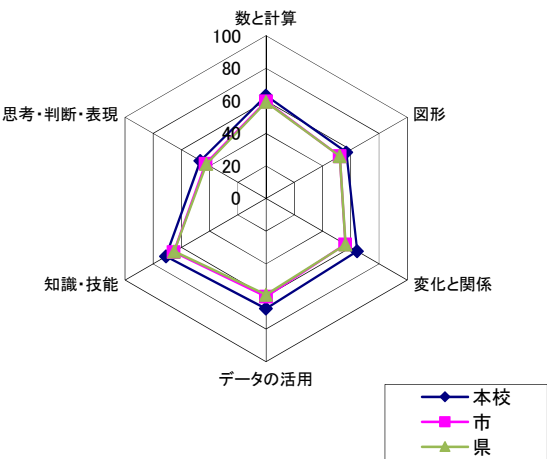
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                        |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | 平均正答率は74.1%であり、県平均を4.1ポイント、市平均を1.8ポイント上回っている。<br>○既習の漢字の読み書きについての設問では、ほぼ全ての設問で県平均・市平均を上回っている。<br>●修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうか問う設問では、平均正答率が17.2%であり、県平均を5.1ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。                                                                  | ・物語文などの読み取りで、修飾と被修飾の関係を考える場面を積極的に取り入れ、言葉の修飾について理解を深められるようにする。                                                   |
| 情報の扱いに関する事項    | 平均正答率は79.6%であり、県平均より4.7ポイント、市平均より3.2ポイント上回っている。<br>○漢字辞典の使い方を理解し、正しく使うことができるかどうかを問う設問では、平均正答率が79.6%で、県平均より4.7ポイント、市平均より3.2ポイント上回っている。                                                                                                          | ・授業において国語辞典や漢字辞典を児童の身近に置き、各辞典の使い方の習熟を図る。                                                                        |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は87.1%であり、県平均より8.2ポイント、市平均より4.7ポイント上回っている。<br>○ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができるかどうかを問う設問では、平均正答率が87.1%で、県平均より8.2ポイント、市平均より4.7ポイント上回っている。                                                                                                       | ・授業や家庭学習等において、ことわざや慣用句、四字熟語などを積極的に取り扱い、ことわざ等の正しい意味を理解できるようにしていく。                                                |
| 話すこと・聞くこと      | 平均正答率は82.0%であり、県平均と同じで、市平均とほぼ同じである。<br>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかを問う設問では、平均正答率が78.5%で、県平均と同じ、市平均を1.5ポイント上回っている。<br>●話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかを問う設問では、平均正答率が87.1%で、県平均より1.6ポイント、市平均より2.0ポイント下回っている。                                   | ・授業や朝のスピーチ、校長講話等学校生活で話を聞く場面において、話し手の意図や話の中心を捉えることを意識しながら聞くよう指導したり、話の後にどんな内容だったか確認したりして、話し手が伝えたいことを捉えられるようにしていく。 |
| 書くこと           | 平均正答率は41.4%であり、県平均より5.8ポイント、市平均より2.1ポイント下回っている。<br>無回答率は30.1%であり、県平均より8.5ポイント、市平均より5.7ポイント上回っている。<br>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章が書けるかどうかを問う設問では、平均正答率が36.6%で、県平均より9.3ポイント、市平均より4.1ポイント下回っている。                                                       | ・書く内容の中心を明確にして文章の構成を考える活動を取り入れ、それぞれの段落に何を書くのか、段落と段落の関係に気を付けて構成を考えられるようにする。                                      |
| 読むこと           | 平均正答率は57.1%であり、県平均より7.3ポイント、市平均より5.7ポイント上回っている。<br>○物語文の内容を読み、登場人物の性格について具体的に想像することができるかどうかを問う設問では、平均正答率が57.0%で、県平均より17.8ポイント、市平均より16.1ポイント上回っている。<br>●説明文において、叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかを問う設問では、平均正答率が47.3%で、県平均より3.3ポイント、市平均より4.3ポイント下回っている。 | ・説明文の学習において本文中からキーワードを見つけ出す活動などを取り入れ、叙述をもとに段落相互の関係性を捉えられるようにする。                                                 |

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 63.1 | 59.7 | 59.2 |
|     | 図形       | 56.8 | 52.1 | 52.1 |
|     | 変化と関係    | 64.5 | 56.1 | 56.3 |
|     | データの活用   | 67.5 | 60.1 | 58.9 |
| 観点  | 知識・技能    | 71.0 | 65.5 | 65.1 |
|     | 思考・判断・表現 | 46.6 | 42.9 | 42.4 |



★指導の工夫と改善

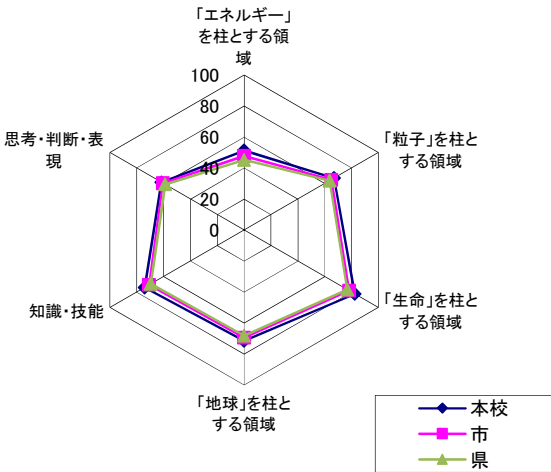
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は63.1%と県平均を3.9ポイント、市平均を3.4ポイント上回った。<br>○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す設問では、平均正答率が69.9%で、県平均を16.3ポイント、市平均を14.7ポイントと大きく上回っている。<br>●目的に応じて正しく見積っているものを選ぶ設問では平均正答率が19.4%で、県平均を8.4ポイント、市平均を7.3ポイント下回っている。                 | ・概数の見積りにおける問題において、日常生活を想起した場面設定したり、切り上げや切り捨ての仕方をしっかり押さえながら解決方法を考えさせるなどして、目的に応じて適切に切り上げや切り捨てを行えるように指導していく。 |
| 図形     | 平均正答率は56.8%と県平均、市平均ともに4.7ポイント上回った。<br>○ひし形の作図をする設問では、平均正答率が90.3%で、県平均を15.6ポイント、市平均を19.0ポイントと大きく上回っている。<br>●身近ものの面積と単位として正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が18.3%で、県平均を16.3ポイント、市平均を14.8ポイント下回っている。                                   | ・面積の学習では、具体物を用いて、実際の面積の大きさを視覚的にとらえ、適切な数や単位で数値化できるように指導を工夫していく。                                            |
| 変化と関係  | 平均正答率は64.5%と県平均より8.2ポイント、市平均より8.4ポイント上回った。<br>○表を横に見て周りの長さがいくつ増えているかを答える設問では、平均正答率が89.3%で、県・市平均より7.8ポイントと大きく上回っている。<br>●伴って変わる2つの数量の関係について表を縦に見て分かることを説明する記述式の設問では、県平均より5.1ポイント上回っているものの、正答率は30.1%と低い。               | ・比例の学習では、表を横に見たり縦に見たりできるよう支援をしながら、変化や対応の関係をとらえ、表の特徴を式に表すことができるように指導をしていく。                                 |
| データの活用 | 平均正答率は67.5%と県平均より8.6ポイント、市平均より7.4ポイント上回った。<br>○2つの折れ線グラフから分かることとして正しいものを選ぶ設問では、平均正答率が68.8%で、県平均より13.1ポイント、市平均より13.3ポイントと大きく上回っている。<br>●二次元表において条件に当てはまる人数を答える設問では、県平均より6.7ポイント、市平均より4.1ポイント上回っているものの、平均正答率が29.0%と低い。 | ・整理のしかたの学習では、2種類のデータを分類整理する上で、落ちや重なりがないように繰り返し指導し、2次元表において条件に当てはまる人数を正しく導き出せるようにしていく。                     |

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 51.3 | 47.8 | 45.3 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 66.9 | 64.9 | 63.6 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 82.4 | 78.2 | 76.8 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 71.5 | 69.5 | 68.1 |
| 観点  | 知識・技能          | 74.1 | 70.8 | 69.5 |
|     | 思考・判断・表現       | 61.6 | 60.5 | 58.8 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 今後の指導の改善                                                                                        |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は51.3%と、県平均を6.0ポイント、市平均を3.5ポイント上回った。<br>○乾電池のつなぎ方の違いについて問う設問では、平均正答率が66.7%であり、県平均を8.9ポイント、市平均を8.8ポイント上回った。                                                                                                                                                                            | ・理科の重要語句や実験結果についてはよく理解しており、今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組ませ、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。                        |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率は66.9%と、県平均を3.3ポイント、市平均を2.0ポイント上回った。<br>○「空気と水の体積の変化」について問う設問では、平均正答率が94.6%であり、県平均を12.3ポイント、市平均を11.3ポイント上回った。<br>●「空気と水の体積の変化」について、ボールに空気を入れると弾む理由を説明する文中に適切な言葉を書く問題では、平均正答率が58.1%であり、県平均を3.6ポイント、市平均を4.6ポイント下回っており、無回答も15.1%と多かった。                                                   | ・実験の予想やまとめをする際に、理科の用語を使って自分の言葉で書かせることを繰り返し行い、科学的に表現する力を高めていく。                                   |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率は82.4%と、県平均を5.8ポイント、市平均を4.2ポイント上回った。<br>○春や夏のころの気温や動物のようすを問う設問では、平均正答率が89.3%であり、県平均を7.4ポイント、市平均を5.4ポイント上回った。                                                                                                                                                                          | ・観察対象や結果についてよく理解しており、授業や観察に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえる。今後も引き続き、目的意識をもって実験に取り組ませ、学習内容をしっかりと身に付けさせていく。 |
| 「地球」を柱とする領域    | 平均正答率は71.5%と、県平均を3.4ポイント、市平均を2.0ポイント上回った。<br>○「水のゆくえ」について、冷やしたペットボトルに水滴が、水蒸気だと理解しているかを問う設問では、平均正答率が72.0%であり、県平均を14.4ポイント、市平均を12.1ポイント上回った。<br>○「星の動き」について、星の並びと見える位置を問う設問では、平均正答率が91.4%であり、県平均を7.0ポイント、市平均を5.4ポイント上回った。<br>●月の動きと動く向きを問う設問では、平均正答率が57.0%であり、県平均を13.6ポイント、市平均を11.5ポイント下回った。 | ・三球儀やボールを使った月の満ち欠けの実験では、ビデオカメラを活用して実際の見え方を視覚化する工夫を行い、月の動きと動く向きについて、正しい知識が身に付くようにする。             |



## 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問への肯定的回答率は65.6%と、県の平均を7.6ポイント、市平均を5.1ポイント上回っている。日頃から自主学習への取り組み方を指導したり、教室内や廊下掲示などに児童の自主学習ノートの取組を掲示したりしている成果が表れていると考える。引き続き、自分で学びたいことを見つけて学習しようとする姿勢を奨励していく。

○「1か月に何冊くらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく。)」という質問に対して「11冊以上」または「5～10冊」と回答した児童は48.4%と、県の平均を6.9ポイント、市平均を5.6ポイント上回っている。朝の読書タイムや月1回のファミリー読書など、本を読む活動を積極的に取り入れてきたことで、読書習慣が身に付き、読書に親しんでいる様子が見えてくる。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問への肯定的回答率は84.9%で、県の平均と市の平均を共に5.1ポイント上回っている。普段の学習や生活の場面において、「岡本西小授業スタンダード」に則り、話し合い活動を積極的に取り入れた成果が表れていると考える。引き続き、グループでの話し合いを多く取り入れることで、自分の考えに自信をもてるようにし、友達の前で自分の考えや意見を発表することを経験させていきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問への肯定的回答率は54.9%で、県の平均より10.4ポイント、市の平均より6.6ポイント下回っている。復習することの大切さを理解させると共に、宿題の出し方を工夫したり、家庭の協力を得たりしながら家庭学習の習慣を身に付けさせていく。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問の肯定回答率は57.0%で、県の平均より7.4ポイント、市の平均より10.5ポイント下回っている。図書室を積極的に利用させると共に、インターネットを利用した調べ学習のやり方を授業で取り扱うなどして、自分の力で調べる体験を多く取り入れていく。

## 宇都宮市立岡本西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組            | 取組の具体的な内容                                                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業におけるめあてと振り返りの充実 | 全ての学年で、岡本西小授業スタンダードを活用し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。(岡西小学習のスタンダード)     | 「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定的回答率が4年生では79.8%で市・県平均を下回り、5年生では90.4%で市・県平均と同程度であった。<br>「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答率が4年生が78.7%で市・県平均を上回り、5年生では79.6%で市・県平均と同程度であった。<br>「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答率が4年生では89.3%で市・県平均を上回り、5年生では89.3%で市・県平均と同程度であった。  |
| 豊かに表現する児童の育成      | 児童同士の関わり合いを大切にしたい対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。                  | 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答率が4年生では67.0%、5年生では74.2%であり、ともに市・県平均を下回った。<br>「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答率が4年生では65.9%で市・県平均を下回った。5年生では84.9%で市・県平均を上回った。<br>「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答率が4年生では63.8%、5年生では60.2%であり、ともに市・県平均と同程度となっている。 |
| 家庭学習の定着           | 地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。 | 「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答率が4年生では95.7%、5年生では98.9%であり、ともに市・県平均を上回った。<br>「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答率が4年生では59.1%、5年生では66.7%であり、ともに市・県平均を下回った。                                                                                                                                    |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                  | 重点的な取組                     | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>各教科の誤答及び無回答率、質問紙の結果から、「自分の考えを言葉で表現すること」「他者の考えを理解すること」に課題を抱えている児童が全体の30%程度いることが明らかになった。</p> | <p>論理的思考力及び表現力の育成に努める。</p> | <p>「自分の考えを言葉で表現すること」の課題解決に向け、国語では主張の理由や根拠をあげながら話したり書いたりする活動、算数では筋道を立てて説明する活動を継続して行う。</p> <p>「他者の考えを理解すること」の課題解決に向け、協働的な学習を実践し、児童間の対話がより活発化するよう指導を工夫する。またICTを活用し、発表の形態に拘らず、より多くの他者の考えに触れられるよう工夫する。</p> |